

読んだ本 (藤嶋 昭 東京理科大学学長 監修)

守屋 洋 中国文学者 朝日学生新聞社)

「やさしい科学者のことばと論語」

川崎市立宮前小学校六年

藤井 智鈴 ふじい ちすず

「なんにでも化ける言葉。」この本を読んで私が考えついた言葉。本を開くと なにか、その世界に吸いこまれた気がした。

この本はクスツと笑える動物の写真と言葉がいっしょにのせられた本。言葉とはエジソンなどの科学者たちの名言である。この本では何十個もの科学者たちの名言が書いてあった。その中でも私は「どんなことも楽しむようになって初めて」という言葉が好き。この言葉を見たとき、上手い下手、出来る出来ないの問題で物事をあきらめてはならない。「楽しい」という気持ちをどこかで持っていない。笑顔をいけば上手に見える。「そうバレエの先生も言っていた。私もそう思う。上手いのはごまかせるかもしれないけれど、「楽しい」という気持ち、心持ちはごまかせない。現代語訳には、「ただ知っているだけの人は、それを好きな人におよばない。それを好きな人も、それを楽しむ人におよばない。」そう書かれていた。私も何かの目標を決めるとき、必ず「楽しむ」といれる。その「楽しむ」には勝ち負けなど気にせず、最後まで楽しむという思いをこめている。

私はこの本をあきらめかけたとき、負けそうになったときになったときに読みたい。なぜなら、「あきらめたらダメ」と背中を押ししてくれると思うから。この本のように言葉は誰かのプレゼントになるだけではない。誰かの心を傷つける武器にもなる。優しく言葉で寄りそってくれるこの本。あなたも一度手に取って読んでみてください。